

聞いてますね

—市民運動かごしまの顔— ④

自立支援センターかごしま理事長 藤田 泰洋さん

いろんな人がいてこそ 障害者を差別しない社会に

——12月に開設した通所作業所「たんぽぽ」で、障害者はどんな作業をしているんでしょうか。

互いに認め合って

「障害によって事情が異なります。身体障害者は、福祉法が早くにできた関係で、手に職をもっている人が多いんです。女性は例えば縫製だとか、男性なら時計の修理とか。表に張り紙を出したら、次々に仕事がきました。料金を市価の半額ぐらいに設定しています。時計の電池交換が500円とか、洋服の補正が500円から1,000円とか。ところが、精神障害者や知的障害者になると、手に職がありませんので、とりあえず、こちらがボランティアをしようと、近隣のゴミ拾いから始めました。そういうことをしながら、世の中をよく見ていく、自立についてじっくり考えようという方針です」

——作業所は2階で、1階が店になっています。

「衣料や贈答品、ぬいぐるみなどを提供してもらって、置いています。障害の比較的軽いメンバーが店番をします。値段もメンバーがつけるんです。ワンピースが100円とか」

——「たんぽぽ」の名の由来は。

「健常者も障害者もお互いを認め合って価値を見出せる生き方をしよう、そんな社会に、タンポポのように芽生えて、いろいろなところに飛んでいこう、という趣旨です」

——NPO法人の申請から認可、登記、作業所の開所まで、とんとん拍子に運んだように見えます。

「地元の中央商店街の協力が、大変な力になりました。会長さんにお話ししたんです。こういうのを開きたい、実は身体障害者もいれば知的障害者もいる、精神障害者も、と。そして、応援してほしい、障害者手帳を見せれば消費税分を割り引きするといったことはできないだろうか、とね。そうしたら、いいですよ、ということで、障害者の社会参加活動をわたしたちは『たんぽぽ活動』と呼んでいるんですが、その活動の協力店章をほとんどの店に張り出してもらっています」

——全面協力。

みんな同じでは危険

「心に残ることがありました。1店だけ『NO』でした。身と心のサービスをして



いる、障害者にだけ特別サービスはしない、と店主がおっしゃるんです。ありがたいと思いました。1人だけ支援を断る。いろんな人がいてこそ健全な世の中なんです。みんなが同じ色に染まれば、危ない世の中になるんじゃないでしょうか」

——これまでに、どんな難関がありましたか。

「わが子のため」を超えて

「ひとつは家賃でした。会員はそれぞれ障害者を抱えて、右から左へ動かせるお金はありません。そこで、わたしが退職金で事務所を買って、NPOに貸す形にしました。わたし個人の老後の蓄えはなくなりましたが。もうひとつは会員の意識の問題です。通常、親が思うのは、わが子のために組織を作ったのだから、例えば精神障害者なら精神障害者だけを、となりがちです。しかし、障害をもつみんなに手を差し伸べるのが自立支援センターの目的ですから、障害者間の差別をなくすことが出発点なのです。まず、わたしたちの心から差別をなくすことが核になります。それを理解してもらうのがひと苦労でした」

組織と活動

特定非営利活動法人（NPO）として2002年7月、設立。あらゆる障害者の自立を支える目的で①通所小規模作業所の運営②グループホームの開設③相談事業、を活動の柱に掲げる。

同年12月にまず、通所作業所と雑貨の店舗を備えた「たんぽぽ」を同市星ヶ峯に開

自立支援センターかごしま

く。現在、障害者の家族を中心に会員16人。市内全域から障害者17人が通う。同じ施設内に、障害者や家族が気軽に話したり相談したりできる軽食と喫茶の店を準備中。

「たんぽぽ」のある星ヶ峯中央商店街は、障害者の社会参加活動に協力を約束している。

＊＊＊ ＊＊＊ ＊＊＊ ＊＊＊ ＊＊＊ ＊＊＊

◆ 身近なところで活動している市民運動の情報を寄せください

——これからの課題は。

「活動を支えてもらうボランティアのありかたが重要な問題になりそうです。退職してボランティア活動をしている人がきてくださったり、介護士の資格をとったからボランティアでこさせて、という申し入れがあったりで、世の中って本当によくできているなあと思うんです。けれど、NPOは社会に責任を負うわけですから、励まし合いだけではすまない。厳しさは当然出てきます。ですから、今後は、報酬を受けて働く職員も必要になってくるんじゃないかと考えています。職責にある者には、それだけの覚悟と努力が必要ですから。無償のボランティアと有償のそれとは、どこかで道が分かれるでしょう。従来の親の会から、一人一人が法人メンバーに育っていくプロセスには、発想の転換が必要です」

(聞き手・藤山 清郷)



ふじみ・やすひろ 1941年、鹿児島市生まれ。鹿児島保健所で長年、障害者のデイケアを担当した。02年、退職して「自立支援センターかごしま」を設立、理事長。